



妹夫婦は恩師に勧められて、安曇野のリンゴ農園で1本の林檎の木のオーナーとなりました。農家に指導してもらいながら、林檎を育てています。その時期に応じ、枝の剪定、摘花、摘果など、安曇野まで出かけて行って作業をしています。そして、秋になり、今日、おいしい林檎が出来上がり、私に贈ってくれました。味は最高です!!

私は林檎が大好きです。甘くて、香りが良くて、ほんのり酸味があって、歯ごたえはサクサクとして、スッキリ感があって、林檎なしの人生はありえない!とってしまいます。

聖書に最初に登場する木の実は、エデンの園の中央に映えている「善悪の知識の木」の実です。神は「決して食べてはいけない。食べると必ず死んでしまう」(創世記2:17)と言われたのに、エバには「おいしそうで、目を引き付け、賢くなりそう」に思えて、夫アダムを誘って、共に食べてしまいました。それで人間は、死ぬものとなったと聖書は記しています。神に従わず、欲望に従うことを、人間の原罪と見なしています。その木の実は林檎と記されてはいませんが、伝統的には林檎と呼ばれています。

林檎はそれほどまでに、善と悪のイメージを背負ってしまった果物です。私は年に一度は39度の発熱に倒れ、全く食欲を失いますが、林檎があれば、林檎だけは食べることができます。私にとっては、命の果物のような存在です。すべて良い木は良い実を結び、悪い木は悪い実を結ぶ。(マタイ7:17)と言われたイエス様の言葉を思い出し、良い実の林檎を頂きながら、人間だって、良い実を結ばなければ、と考えさせられます。



林檎のような赤い実は小鳥にとっても目を引き付けられるようで、ベランダの鉢植えのクリスマスホリーに、ここ数日ヒヨドリがアダムとエバのつがいやってきては実を啄んでいます。木は部屋に入れるには大きくなり過ぎたので、鳥が食べる様子を眺めるしかありません。きっと最高においしいのでしょう。クリスマスまで実がついたままでいられないだろうという予感がしますが、この際、鳥にも恵んでやろうと思います。

そのほか、エルミタージュの庭には赤い実をつけた木々が花(?)盛りです。千両、万両、ピラカンサスの赤い実が鈴なりに付いていて、目を引きまします。美味しいかどうかは分かりませんが、現在、鳥は近づいていないようなので、美味しくはないのでしょう。



今年初めて知ったのはマユミの木の実は、四角い蕾の中に4つの実があり、とても可愛いのです。また、実ではありませんが、クリスマス用に、覆いをしたポインセチアの葉が赤く色づきました。自然がこれほどまでに良い実を結んでいます。私の実は?と問われるのでは…と思いながら、林檎を食べています。

